平成 29 年度第 1 回志摩市地域公共交通会議 離島航路幹事会 議事概要

1 開催日時 平成 29 年 6 月 29 日（木）午後 2 時～3 時 40 分

2 開催場所 志摩市役所本庁舎 6 階 602 会議室

3 出席者（順不同）

会長	志摩市副市長	加藤	倫之
委員	間崎自治会長	岩城	保司
委員	間崎老人会長	野村	儀次
委員	間崎婦人会長	山本	くに枝
委員	志摩マリンレジャー株式会社取締役社長	喜多	勇司
委員	中部運輸局三重運輸支局鳥羽海事事務所次長	山崎	博章

4 委嘱状の交付

委員へ委嘱状の交付が行われた。

5 あいさつ

- ・ 和具-間崎-賢島航路は、間崎島の住民の皆様にとっては必要不可欠な唯一の公共交通機関となっており、県立水産高校への通学や観光客の市内観光周遊ルートなど重要な役目を担っている。
- ・ 志摩市は人と自然の共生を体験する里海ツーリズムの推進をテーマに取り組んでおり、この航路を維持することが大事であると考えている。
- ・ 本日は、よろしく願いしたい。

6 議事

(1) 和具～賢島航路の現状について 資料 1

ア 資料 1 について説明

- ・ 減少傾向にある。平成 27・28 年の増加はサミット効果と見ており、状況は厳しい。

イ 委員から質問や意見

(A 委員)

- ・ 島民の定期券の利用はあるか。
- ・ 乗降調査の方法は。
- ・ 資料 1 の区分別人員数はその調査期間の数値か。

- ・ 6月調査の実測値は。

(B 委員)

- ・ 島民の利用はない。島民は回数券が多い。
- ・ 船員は島民と顔なじみであり、島民の顔がわかるので、島民だけを数え、島民とそれ以外の客数を出した。定期購入者は、1カ月50回乗船したと仮定した推測値である。
- ・ 資料の区分別の人員は、6月に乗降者調査を3週間行い、その実測値の割合を平成28年度利用者数に当てはめた推測値である。
- ・ 調査期間は20日間。和具～賢島間通しで乗る方も含めて全利用者数は1284人、うち島民の利用は231人、約13%であった。
- ・ 一番多い時で、乗船1回を1人と数え1日20人位、1日最大10人が乗船している。

(C 委員)

- ・ 今年は年に4~5回、社協の買い物ツアーをする予定であるので、少し増えるのではないかと。毎回の参加者は約15人の参加であるので、それだけでも結構な人数が乗ることになる。

(2) 離島航路確保維持計画の策定について 資料2

ア 計画内容を説明

- ・ 運航回数や時刻表について変更はない。
- ・ 平成30年度、消費税増税が予定されているため、消費税増税があれば運賃の変更がある。しかし、消費税増税については情報がないため、わからない。

イ 委員からの質問や意見

(D 委員)

- ・ 観光客誘致を増やしていただくよう、市と志摩マリンレジャーでより一層力を入れていただきたい。
- ・ 旧水道タンク跡地に何か活用してもらおうよう考えてもらえないか。
- ・ そこからは、四方八方見渡すことができる。

(E 委員)

- ・ 見渡すには、高さが必要ではないか。

(C 委員)

- ・ 木も生えているので切る必要がある。

(A 委員)

- ・ 年間 2 万 5 千人の現状で収支率が 50%程度ということであれば、逆に言えば年間 5 万人乗れば、儲けにはならないがかなり改善することになる。
- ・ 一番、間崎島が最盛期の時はどれくらいの人があったのか。つまり、間崎島を利用してもらうにしても、間崎島の収容力はどれくらいあるのか知っておく必要があるのではないかと。

(E 委員)

- ・ 最盛期は、民宿が 10 軒くらいあり、島民も多く、民宿のお客さんも多かった。
- ・ 真珠の良い時は、自分の船だったので、その後の民宿があった時が、定期船をよく利用したのではないかと。

(C 委員)

- ・ 昔は島内に小学校もあり、中学校からは和具へ行っていた。また、当時は志摩町で役所が和具にあった。そんなこともあり、間崎～和具間が過去から賢島間より安くなっているのではないかと。
- ・ 和具～間崎間と賢島～間崎間の人数の問題もあり、志摩マリンレジャーも厳しい状況であるのでどうということではないが、消費税増税で運賃改定する際は間崎住民がよく利用する賢島航路について配慮を検討いただきたい。

(A 委員)

- ・ ビーチがきれであるが、海水浴をする人はいるのか。

(C 委員)

- ・ いっぱいいる。千名位はいる。

(E 委員)

- ・ 御座白浜へ行く船が欠航時に間崎に来たり、間崎は波がないから良いと来たりしている。ただ、飲食する場所がない。

(A 委員)

- ・ 今すぐ何かできるというものではないが、空き家があるのであれば、住宅宿泊事業法というのことができ、旅館でなくても家で宿泊させることができるようになる。そういうことも活用ができるかもしれない。
- ・ 「わざわざ間崎島に行ってもよかった。」というものを作らなくてはならないというのは、おっしゃるとおりで、目的となる物を作らなくてはと思う。

(F 委員)

- ・ 釣り客は来ているのか。

(E 委員)

- ・ 堤防やいかだで釣りをする人もいる。

(D 委員)

- ・ 間崎島を訪問した感想はどうか。

(B 委員)

- ・ その静けさが、なにか癒されるように感じた。自然がキレイで、海がキレイで、昔の立派な家があり、懐かしく感じ、いい所であると思う。
- ・ しかし、宿泊施設も飲食店も、何もない。観光客を呼んでくるには、何もないから来てくださいとなる。

(E 委員)

- ・ それでは、宣伝がさびしいと思う。

(A 委員)

- ・ 海士町が「ないものはない。」と逆に PR をしている。
- ・ さっきの釣りや海水浴など、やれることは何かあると思う。
- ・ ここでの議論ではないと思うが、観光客を呼ぶ何かを考える必要がある。

(E 委員)

- ・ 岩城会長が言ったように、景色が見られる展望台みたいな施設を作るとかはどうか。
- ・ 良い景色や、春先には小鳥のさえずりがあつたりするが、漠然と島に来るとこんな感じか、となってしまうと思う。

(A 委員)

- ・ ノスタルジーに浸るだけのイベントではなく、例えば太極拳やヨガを大勢でするなど、そういう話を持ってくるということもありかもしれない。しかし、最終的には飲食店や宿泊施設がないとという話になってくると思う。
- ・ そのため、そういうことを行う人をどうやって連れてくるかということになるのではないか。

(A 委員)

- ・ 計画書の記載内容について、「2. 定量的な目標・効果」の「短期的

v な調査のため正確性に欠けるが...」をマリンレジャーさんがしていただいた調査をもっと丁寧に書いてほしい。また、調査の内容や時期を正確に書き、来年度も定量的に調査できるようにしてほしい。

- ・ 同様に、観光客利用客数 1,700 人以上とあるが、その数字がどういう数字かをしっかりと書いてほしい。
- ・ 間崎島利用者の動向をもっとつかむようにする必要があるのではないか。お客さんが多い時期にもっと来てもらうようにすることと、お客さんが少ない時期に来てもらうようにすることは違う。イメージだけで語ると実際とちがうこともあるので、そういうことをデータとして、つかむようにしてほしい。
- ・ 継続的にデータを追えるようにしていただきたい。
- ・ 今後の課題としては、利用者数とその内訳を目標値に書いていただけるようお願いしたい。

(E 委員)

- ・ 定期船内でアンケートを取っていたが、結果はどうだったのか。

(B 委員)

- ・ 最近取ったアンケートの回収数は 23 枚だった。
- ・ 意見は、お礼の言葉や、「間崎島行で利用しています。比較的便数が多くて助かっています。」「和具から賢島へ行くのは、バスより便利。」「11 時台に便を作ってほしい。」「今のままでいいという意見。」「船の目線が低いので良い。」というのがある。

(A 委員)

- ・ 基本的には去年と変わらない。料金設定については、過去のいきさつもあるので、間崎～賢島間と和具間の料金設定についてはもう少し考えても良いのではないかという意見でよいか。

(B 委員)

- ・ 先ほどのアンケートで、島民に割高と感ずるかを聞いているが、割高と感ずると回答する方は 7 人中 2 人と、そんなにいなかった。

(A 会長)

- ・ 今の状況で料金を安くするのは、当然できない。
- ・ 事業者としては、間崎～賢島間を下げることは、収益が悪い状況でさ

らに値段を下げることはありえない。

- ・ それであれば、和具間を元に戻すというのは、選択しかもしれない。
- ・ 航路を維持するという観点から言えば、大事なことだと思う。

(C 委員)

- ・ 運営ができなくなったら、値上げするしかなくなる。

(A 委員)

- ・ 運行会社と利用者で航路を守るために話すことは大事な場面であるので、しっかりと運賃のことは意見に入れていただきたい。

(A 委員)

- ・ 志摩マリンレジャーさんは旅客会社で旅行会社ではないので、観光客を呼んでくるのは本業でないのに厳しいところがあると思う。
- ・ ほかに間崎に来ている旅行会社やホテルはどこか。
- ・ なぜかという、間崎に来る旅行者が何を求めているのか、を我々だけで考えていてもわからない。航路の良いところを把握したうえで意見を出していく方向に動いていく必要があると思う。
- ・ 要綱には会長が必要と認めるものを呼ぶことができるとあるので、間崎島に注目してくれているような旅行会社などにプロの目で意見をだしてもらおうと、良いのではないかと思った。

(E 委員)

- ・ 間崎に来る宿泊施設は、自分の船で間崎に来ている。

(事務局)

- ・ 観光の専門分野で入ってもらえれば、違う意見も出してもらえないか。

(A 委員)

- ・ 時間が作れるのであれば、観光客が減って落ち着いた時期にもう一度やってもらった方がよいのではないか。

(B 委員)

- ・ 海水浴客が来た時など、自治会としてはどういうことをしているのか。例えば、BBQ したいという人が来た場合は、自治会へ連絡する必要がある。

あるのか。

(A 会長)

- ・ 自治会に連絡をすれば、手伝ってくれたりするのか。

(E 委員)

- ・ 自分たちで来て、自分たちでやっている。
- ・ 先日、島が好きと言う若い子が、もやいにやってきて話をしたりした。

(A 会長)

- ・ 必要なのは飲食店や宿泊施設になると思う。どんな人を連れてきて、誰にやってもらうかが重要になると思うが、食材を輸送するとなるとコストもかかるので、間崎島で食材の現地調達ができないか。
- ・ 資源を明確にしておく、こういうことをやりたいという人が出てきたときに、これが提供できるというような情報があれば、お互いにやりやすいのではないかと思う。

以上